

未来



全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中郵支部
機関紙 「みらい」
NO. 4138
21年4月2日(金)
Tel・Fax 095-828-1953

「Dcat(ディーキャット)」本格導入 「監視」となるか「安全推進」となるかは運用次第

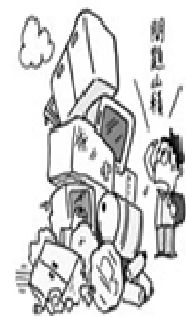
おはようございます。
新年度がスタートしました。局長や部長など管理者も多く代られ新体制となりました。各職場でも新施策が導入されるようです。施策が労働強化ではなく、働きやすい環境作りになることを願います。
集配の職場では、4月より本格的に「Dcat(ディーキャット)」が導入されます。Dcatとは「配達支援コミュニケーション支援ツール」の略称で、専用端末(スマートフォン)を携帯するだけで、配達中の位置情報、他、個人の配達進捗状況や走行状況(急加速・急減速等)を「見える化」するものです。
長中局では先月下旬から専用のスマートフォン端末を使用して、通配区で試行運用が始まったので携行した社員も多いと

思います。しかし業務関連のプリントとして配布された資料はあるものの、Dcatの運用に関する具体的な研修はなく、目的や効果又問題点などが説明されていません。



Dcatでは、GPS機能により社員の現在位置や行動が特定されます。運用次第では社員の監視ツールにもなりかねません。また応援体制の効率化も謳われているため、これまで以上に受援者が時間前着手や休憩時間を

適正に取得しない等も懸念されます。Dcatの運用についてシステムの仕組みや目的などを考えます。まずDcatの「開発コンセプト」ですが、一番は「社員の命を守る」で、「安全推進」が「効率的な応援体制」とともに必要性のトップに挙げられています。



「安全推進」では、危険箇所等を地図上に登録できるほか、急加速、急減速、速度超過の発生しやすい道路をデータから判定できるので、防衛運転につながる。長時間停止している社員がアイコンで表示されるので、配達中でも社員の状況を見

守ることが出来る。「効率的な応援体制」では、配達区ごとの配達進捗状況や社員の現在位置が確認できるので、効率的に応援指示が行える、とあります。

また自動習得したデータに基づいた
①社員育成…育成対象者の走行状況(運転速度)や走行軌跡を他の社員と比較し、具体的なアドバイスを含む対話を実施。
②業務指導及び指導…日々の配達作業の応援

Dcat運用での懸念・問題点の一例

- 具体的な周知や研修がなく、目的や効果又問題点などが説明されていない
- Dcat運用の要(かなめ)は、課長と課長代理によるDcatによる進捗確認・応援指示だが、多忙の中での更なる付加業務実行は困難
- Dcatによる業務状況確認、社員との対話・指導など課長や課長代理の業務が増大する。時間の生み出しがなければ超勤が増え実施困難に
- 上記応援指示などでは、課長代理の班内全区の把握が前提となるが可能か
- 課長代理が通配にいない場合、配達途中ではDcat情報が確認できず進捗確認・応援指示が出せない
- 受援者が時間前着手や休憩時間を適正に取得しない、出来ない可能性が高まる
- 進捗状況や帰局状況表示されるため、配達の早い社員が毎日応援を要請される可能性がある
- 「急加速、急減速」など運転評価レポートが翌週でないと確認できないため、活用しにくい

をリアルタイムの位置情報や作業進捗状況を元に実施、するとしています。
以上のようにDcatとは、「習得した様々な客観的データを活用し、社員指導や育成等、コミュニケーションを支援するためのツール」と言えます。今後、携帯端末Dcat端末の集約も予定されており、良くも悪くもDcatに管理された配達業務となることが予想されます。
しかし現状では、別表に挙げた問題点・不明点も多く、Dcatが開発コンセプト通りに運用されるかは管理者次第です。またデータ分析に「AI」が導入された後は、個々の能力を無視、或いは出来るかと判断された社員が毎日応援を要請されるという事態にもなりかねません。問題点・不明点は積極的に質問し改善を求めて行かないと、データに振り回される近未来的な職場になります。組合も注視しますが、社員の方皆さんも正念場となります。気づいたことは何でもユニオンに知らせてください。

仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。
期間雇用社員の希望を主眼の正社員化を。ゆれば、均等待遇、なげんし差別。ユニオンは労基法裁判に勝利したぞ！